

炭酸カルシウム水和剤散布によるウンシュウミカン果実に発生するかすり状被害の防除

利用対象：東紀州地域でウンシュウミカンを栽培する生産者



図1 6月頃から現れる本被害



図3 ホワイトコート散布果実

東紀州地域のウンシュウミカン果実では、果頂部や側面に6月下旬から7月にかすり状の被害（図1）が見られます。この症状はチャノキイロアザミウマの発生数と関係があり、多発園では殺虫剤や殺菌剤を通常通り散布しても発生します。

そこで、炭酸カルシウム水和剤（商品名：ホワイトコート）を散布することによって本被害に対する防除効果が認められました。

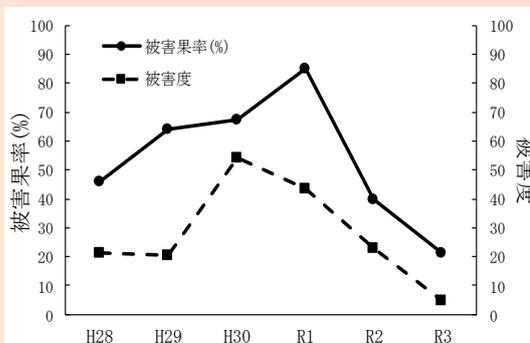


図2 無防除区におけるかすり状被害の発生率と被害度の年次推移（現地1圃場）

本被害は年次によっては甚大な被害を受けることがあります。

図2は御浜町現地圃場の「日南1号」における本被害の年次推移です。

表1 各防除対策とかすり状被害の発生程度（R2年度）

処理区	調査果数	かすり状被害				被害果率 (%)	被害度	防除価
		無	少	中	多			
炭カル剤+慣行防除	50	48.0	1.7	0.3	0.0	4.0	0.9	96.4
炭カル剤のみ	50	44.3	4.7	0.7	0.3	11.3	2.9	88.3
慣行防除	50	41.0	6.0	2.3	0.7	18.0	5.7	77.0
無処理	50	27.3	7.0	9.0	6.7	45.3	24.7	-

炭カル剤散布区では6/2～7/2にかけて炭酸カルシウム水和剤を計4回散布し、慣行防除区では6/15と7/15に殺虫剤を散布した。

主な被害時期である6月上旬から7月上中旬にかけて、炭酸カルシウム水和剤を散布することで本症状の発生を軽減できます（図3、表1）。

表1は、御浜町現地圃場の「日南1号」での調査で、6～7月に防除を行い、9月15日に調査した結果です。

注意

- ・ホワイトコートの登録は、「かんきつ」では25～50倍でのチャノキイロアザミウマと、200倍での銅剤の薬害軽減のみです。散布回数および収穫前日数に制限はありませんが、散布後は白色の薬斑が強く残るため、収穫後に果実の洗浄処理を行うか、収穫2か月ほど前までに散布を終えることが望ましいです。
- ・本症状に関して、チャノキイロアザミウマ以外との関連は調査しておりません。

お問い合わせ先	紀南果樹研究室 紀南果樹研究課 小林孝徳、須崎徳高 電話 05979-2-0008 中央農業改良普及センター 西川 豊 電話 0598-42-6323
参考になる資料	https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm （三重農研HP）